

『真夜中のセリヌンティウス』

太宰治『走れメロス』一部朗読。

「ああ、王は慥巧だ。自惚れているがよい。私は、ちやんと死ぬる覚悟で居るのに。命乞いなど決してしない。ただ、――」と言いかけて、メロスは足もとに視線を落とし瞬時ためらい、「ただ、私に情をかけたつもりなら、処刑までに三日間の日限を与えて下さい。たった一人の妹に、亭主を持たせてやりたいのです。三日のうちに、私は村で結婚式を挙げさせ、必ず、ここへ帰って来ます。」

「ばかな。」と暴君は、しわがれた声で低く笑った。「とんでもない嘘を言うわい。逃がした小鳥が帰って来るといえるのか。」

「そうですね。帰って来るのです。」メロスは必死で言い張った。「私は約束を守ります。私を、三日間だけ許して下さい。妹が、私の帰りを待っているのだ。そんなに私を信じられないならば、よいろしい、この市にセリヌンティウスという石工がいます。私の無二の友人だ。あれを、人質としてここに置いて行こう。私が逃げてしまつて、三日目の日暮まで、ここに帰って来なかったら、あの友人を絞め殺して下さい。たのむ、そうして下さい。」

部屋にセリヌンティウスが入ってくる。

セリヌンティウス 今日も疲れたな、ほんと親方は人使い荒いんだから。・・・呑みにでも行くか・・・お。(ポケットから携帯電話を出す)メロスじゃん。(電話に出る)もしもし、メロス！ 元気だった？

何、町来てるの？ ちょうど俺仕事終わって飲みに行こ

うと思つてたところだ。付き合えよ。今どこ？

お城？　何でそんなところにいるんだよ。
ちよつとまで、順番に話してみる。まず、町に何しに来
たんだ？

え？　あの「内気な妹」が結婚？　おめでとう。いつ？
明後日？　そりゃ急だな。大丈夫、仕事休み取っていく
から。

え？　俺は出席できないって、どういうこと？　親友だ
ろ？

そういえば、「政治はわからぬ」って言つたお前がな
んでお城なんか？

王様、か。あれはな、最近人間不信でさ。身内でも何人
も殺されてて。今日も噂だと六人くらい処刑されたって。

まあお前はな、ああういの許せないだろうけど。
バカ、だからって「生かしておけぬ」だなんて口にする
な。どこで誰が聞いているかわかんないんだぞ。

え？　短剣持つてお城に？　そんなことしたら捕まる
ぞ！　・・捕まつたのか。お前、お城のセキュリテイー
甘く見るんじゃないぞ。

そんなことしてただじゃ済まないだろ。
そうか。死刑か。

お前さ、昔つから頭に血が上ると本当に考え無しに行動
するから、その前にちゃんと俺に相談しろっていつも言
つてたろ。・・今じゃ遅いよ！

で、もう遅いけど、俺に相談か。仕方ない。お前の最後
の頼みだ、聞いてやるよ。何だ？

・・身代わり？　わかった。死刑になるお前の代わり
に、妹の結婚式に出ればいいんだな。
え？　違う？

お前が結婚式出るって、殺されるんだろ？　三日だけ猶
予をもらった？　さっきの話聞いてた？　王さま、今す

ごい人間不信だよ。そんなこの馬の骨ともわからない
お前ごときの話を信じるわけないだろ。え？ 条件出し
たら○✕もらえた？ どんな条件？

・・身代わり？

あ、そっちの身代わり？ うわあー、何で俺殺されなき
やいけないの。え？ 殺されない？

それはお前が戻ってくれば、だろ？

いや、お前を疑ってるわけじゃない。でも、お前が戻っ
て来なかったら俺が殺されるってことだろ。そういうこ
とは無いと願いたいのが、そういうことじゃないか！ お
前がバカ正直で嘘つかないのは知ってる。だけど、俺に
相談も無くそんなこと勝手に決めるなよ！

あ、ごめん。ちよつと言い過ぎた。・・だから泣くなよ。
ちよつと俺もさ、こういう「死刑の身代わり」って初め
てだからさ、気が動転して戸惑ってるだけで。

うん。ああ、三日間、牢屋でじつとお前の帰りを待って
ればいいんだ。ああ、意外と簡単な仕事で、安心した。

待て。でもさ、世の中ってなかなか自分の思い通りには
ならないじゃない。そうなった時のな。・・

例えばそう、天気予報で明後日あたり大雨だって言っ
たぞ。

村までの道、いまだに舗装されてないだろ。道ぬかるん
で、思い通りに走れないだろ。予定より遅くなってしま
うことだってあるわけじゃないか。いくらお前が「三日
後の日暮れまでに帰ってこよう」と思ったって、思い通
りに走れない場合だってあるわけだよ。

確かに、昔からお前が足速いのは知ってるよ。知って
るけど、道がドロドロにぬかるんで思い通りに

「がんばる」ったって、「車軸を流すような大雨が」・

疑ってない、疑ってない。・・

じゃあ、がんばって走れ、メロス。

あ、そうそう、お前の村に行く途中の川。あそこってさ、大雨になるたびに橋流されちゃうだろ。あれ流されてたらどうするんだよ。

泳ぐ？　だって橋流されるくらいの濁流だよ。

確かに、昔っからお前が泳ぎ得意なのは知ってるよ。知ってるけど、泳いでも下流にどンドン流されて

「がんばる」ったって、「百匹の大蛇のように、のた打ち荒れ狂う波を相手に」・・・

疑ってない、疑ってない。・・・

じゃあ、がんばって泳げ、メロス。

あ、そうそう、最近あの辺りって山賊が出るって噂だぞ。出てきたらどうする？　戦うって。相手は一人じゃないぞ。山賊なんだから。

確かに、昔っからお前が腕っ節強いのは知ってるよ。知ってるけど、相手は何人いるかわからない

「がんばる」ったって、「山賊たちは物も言わず、一斉に棍棒を振り上げ」・・・

疑ってない、疑ってない。・・・

じゃあ、がんばって戦え、メロス。

まあ、お前なら心配ないと思うけど。万が一。そんなのが三つとも来ちゃったら、そりゃあ相当疲れると思うんだよ、さすがのお前も。

そうなるとな、人間ってのは、心にも無いことを悪魔がささやいたりするわけだよ。例えば「ここで逃げちゃえば死ななくてすむぞ」なんて。いや、お前のことを疑ってるわけじゃない。ただ、悪魔ってのは・・・うん。もし、お前が悪魔にささやきに乗ってしまったら？

殴ればいいのか。ああ、そうか。手加減無しに。うん。親友だもんな。

じゃあ、俺もお前を待ってる間、することなくって超暇

だからさ、悪魔が「あいつ逃げたんじゃないか」なんてささやいたりするかもしれない。そうしたら、お前も俺を殴っていいよ。手加減無しに。親友だもんな。

・・・でも、その時って俺たちは会えるのか？

つまりお前が悪魔のささやきに操られて間に合わなかった時ってのは、俺は殺されちゃってるってことだから・・・

うん。もし、そんなことになったら？

・・・お前も死んでくれるのか。・・・ありがとう。親友だもんな。

でも、二人とも死んじゃったらおかしくないか？

ちよつと待て、もう一度考え直そう。他にいい方法があるかもしれないから。その「身代わり」のところからもう一度考え直そう。

あー、だから、いつも言ってただろ。感情的になったらすぐに俺に相談しろって。

「今度からそうする」って。お前に今度があるのか！

『はい』こんな時間に誰か来た。

『はい。ちよつと待って』すぐ追い返すから。いいか、その「身代わり」のところからもう一回な。

（電話を置いて、玄関に行く）

すみません。今取り込んでるもんで。別の日にしてもらえませんか？ え？ お城から？ それはご苦労様です。・・・

はい。メロスは、知り合いです。え？ 今、お城にいるんですか？ はあ、何しに行ったんだろ。全然知らないんですけど。

え？ 今からお城に？ いや、ちよつと今取り込んでるんで、明日でいいですか？

（電話を気にする）

じゃあ、明日朝一で行きますんで。

（腕を掴まれたらしい）

じゃあ後で、今晩中には行きますから。

（腕を引っ張られる）

ちよつとだけ、待って。五分でいいから、すぐ終わるか
ら。

わー！

セリヌンティウス、連れ去られていく。

— 幕 —